

日本学術会議 化学委員会
有機化学分科会（第26期・第4回）・高分子化学分科会（第26期・第4回）
合同分科会議事要旨

日時：令和7年10月20日（月） 10:00～11:30

会場：日本学術会議6階会議室6-C(1)(2)会議室+オンライン（Zoom）ハイブリッド

（以下敬称略）

出席者：（第二部会員）眞鍋史乃（第三部会員）石原一彰（連携会員）安藤香織、磯部寛之、内山真伸、澤村正也、茶谷直人、寺田眞浩、徳山英利、中島裕美子、中西和嘉、中村栄一、庭山聰美、矢島知子、山口茂弘、山子茂、山下誠、山田容子、秋吉一成、石原一彦、上垣外正己、岸村顕広、君塚信夫、栗原和枝、小林定之、田中敬二、藤田照典、宮田隆志
欠席者：高柳大、小川智、尾坂格、菅裕明、三浦佳子、伊藤耕三、片岡一則、竹岡裕子、丸山厚、吉江尚子

書記：山下誠

議事要旨：

初めての合同分科会として対面・オンラインを含めて参加者全員の自己紹介を行った。

報告）

石原一彰有機化学分科会委員長から、当日午後開催の「AI導入による有機・高分子化学の10年先の将来展望」の内容・趣旨・プログラム内容についての案内があった。

議題）分科会で今後検討すべき課題について

両分科会で連携して開催する今回のシンポジウムの主題のAIに焦点をあて、有機化学と高分子化学におけるデータの収集、蓄積、活用方法について意見交換を行った。また、AIと情報の関係、AIに関する教育などに関して、科学全般や海外における状況の情報を共有した。これらに基づき、日本学術会議の分科会として、今後取り組むべき方向性について議論した。

以上